

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

甲州市長 鈴木 幹夫

市町村名 (市町村コード)	甲州市 (19213)
地域名 (地域内農業集落名)	大藤地区 (街道端、赤子、青南、小山、嵯峨塩第一、向久保、土塚、下原、北原、重郎原、上井后田、 下井后田、上中、室屋、西原、鐙摺 糺屋、中田、下中、宮ノ前、向井)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年9月25日 (第3回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

塩山地区と神金地区の間に位置し、神金地区と同じく県道塩山停車場大菩薩嶺線と国道411号線に沿って集落が広がっている。もも、すもも、ぶどうの果樹栽培が中心で、特にももの生産量は塩山地域の出荷量のうち、約35%を占めている。ももの生産拡大には地域全体で取り組み、いち早く「光センサー」による共選を導入して品質の向上を図るとともに、「大藤のもも」というブランドの確立に努めてきた。山間地は段々畑が多く、部分的にはほ場整備が進んでいるが、耕作放棄地は増加傾向にある。当地区は、農業者の平均年齢が70歳を超え、高齢化が進んでおり、地域農業を持続していくためには、後継者の確保・育成と併せて、果樹農業を「魅力ある」「儲かる」ものとする必要がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

当地域は、ももを主体とした果樹生産地帯であるが、急傾斜で狭小な農地が多く、近年、高齢化等の理由から耕作放棄地が増加している。中萩原地域では、中山間地域整備事業によるほ場整備を平成10年度から行い、平成13年度末に完成し、「らくらく農園」として営農が行われている。また、平成20年度には畑地帯総合整備事業によるほ場整備を行い、「第2らくらく農園」、平成29年度には、経営体育成基盤整備事業によるほ場整備を行い、「第3らくらく農園」として規模拡大を行った。今後も「大藤のもも」の地域ブランドの保全に努めながら、優良農地の確保等新しい産地づくりを推進し、農業の活性化を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	183.05 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	183.05 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農用地区域内(農振農用地)区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に経営面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を積極的に進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
効率的な農地利用を推進するため、農業委員や農地利用最適化推進委員と連携を図りながら、農地中間管理機構を積極的に活用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
担い手のニーズ、地域の意向を踏まえ、各種補助事業を活用し、農地の大区画化、汎用化等のための基盤整備事業を進める。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
認定農業者制度の活用・充実、農地の集積による規模の拡大、定年退職後の帰農やIターン・Uターン者による新規就農者の確保・育成といったプログラムを包含した市独自の「就農定着総合支援制度」、就農に特化した「地域おこし協力隊制度」等を最大限活用し、多様な経営体の確保・育成に努めていく。また、新規就農者に対しては、経営の安定化が図られるまで地域や関係機関が相互に連携し、支援していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農福連携や地域おこし協力隊制度などによる農作業受委託を従来以上に進めていく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☒ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】
①鳥獣被害の軽減に必要な対策をハード・ソフト両面において実施していく。 ②草生栽培をはじめ、環境への配慮と減農薬化を気象変動を睨みながら段階的に推進する。 ⑤果樹の盗難防止に必要な対策(夜間巡回警備)をJA等と連携しながら実施していく。果樹産地構造改革計画に即した果樹の優良品種への改植・新植や省力化に向けた園地整備を進め、担い手への集積を促す環境整備に努める。